

# GJS : Shaping the World !!

前 ニューヨーク日本人学校

現 札幌市立 幌東中学校

戸田賢之

## ●アメリカ合衆国，ニューヨーク州について

アメリカ合衆国の総面積は約963万平方キロで、この面積は我が国の約25倍にあたり、そのうち、約3分の1は森林地帯である。2013年現在、アメリカの総人口は約3億1千7百万人となっており、人口密度は我が国の約10分の1で1平方キロあたり約34人となっている。

ニューヨーク州は、アメリカ合衆国独立時の13州のひとつとして、その歴史は古く、ワシントン大統領の時、1年間だけニューヨーク市が首都だった。その後、フィラデルフィア、そして現在のワシントンD.C.へと移転した。人口は約1938万人（2010年）で、アメリカ西部のカリフォルニア州、テキサス州に次いで全米第3位、世界的大都市のひとつであるニューヨーク市を擁するアメリカ東部の代表的な州である。ニューヨーク市は、北緯41度、ほぼ我が国の青森市と同緯度に位置し、面積約800平方キロ、人口は約818万人（2010年）で、これは全米の都市で第1位である。ニューヨーク州総人口の約40%が同市に集結している。

## ●コネチカット州について

ニューヨーク日本人学校は1975年4月にニューヨーク市クィーンズ区に設立。1992年9月に、ニューヨーク市からコネチカット州グリニッチタウンへ移転した。

コネチカット州グリニッチタウンは、ニューヨーク州と接するコネチカット州の最西端に位置し、北緯41度5分、西経73度40分（日本の青森とほぼ同緯度）。人口約6万人、面積48平方マイル、そして全米で最も裕福なコミュニティのひとつとして知られている。そのため、教育水準は高く、公共施設も充実している。日本人もかな



り多く住んでいる町である。コネチカットとは、インディアン語で「干満のある川のそば」という意味である。森林が州の面積の3/4を占めており、人口密度は高い。しかし、近代的な都市とどかな田園風景とがバランスよく共存している州である。コネチカット州の面積は1万4千平方キロと合衆国の中ではロードアイランド州、デラウェア州に次いで3番目に小さな州であり、州の人口は約328万人である。州都はハートフォード。州のモットーは、「移民というのは大いに主張するものだ」であり、CONSTITUTION STATEのニックネームを持っている。個人平均所得は全米でも1、2位を争うほど高い。

## ●アメリカの教育制度について

アメリカの教育には地方分権が徹底している。アメリカの連邦政府は直接教育には関与せず、教育面は各州と地方自治体の教育委員会にすべてを任せる制度をとっている。つまり、学校区の地元民から選出された教育委員と、互選または任命による教育長が、カリキュラムの設定、教科書の採択、管理職の登用、就学年齢、必要単位数など基本的なことを決定する。したがって、その実態は、州や市はもちろんのこと、一万人規模の町で

あっても、教員の待遇はもとより、教育レベルまでかなり異なっているのが現状である。また、義務教育の年限も州によって違う。地方自治が徹底しているアメリカでは、国が学習指導要領を決めるとか、教科書を検定するなどということはない。このように、アメリカの教育の権限は地方分権が建前であり、教育の事情は州ごと、あるいは地方教育区ごとに異なる面もあるが、同時に連邦及び州の政府による財政的補助活動のおかげで、あるいは大学入学準備の必要性などにより、共通する部分も少なくない。義務教育の年限は州によって異なるが、多くの州では6～7歳から10～12年間である。初等、中等学校の体系は、8・4制、6・6制、6・3・3制、5・3・4制（コネチカット州）などが一般的である。

### ●ニューヨク日本人学校の歴史

ニューヨク日本人学校は、ニューヨク州と接するコネチカット州の最西端に位置し、ニューヨク州とコネチカット州が認可した私立学校である。日米双方のいずれの上級学校への進学も可能である。設立は1975年4月25日、設置者は教育法人ニューヨク日本人教育審議会、運営主体はニューヨク日本人教育審議会教育管理委員会である。1975年9月2日、ニューヨク市クィーンズ区に開校。名称を「ニューヨク日本学校」とする。その後、1981年同区フラッシングの元市立学校の校舎に移転、1991年ヨンカースの旧ウォルト・ウイットマン公立校舎への仮住まいを経て、1992年9月1日、グリニッチ校舎に移転した。1994年4月1日、「ニューヨク日本人学校グリニッチ校」に呼称変更した。なお、1999年4月よりニュージャージー州の日本人学校及び補習授業校の運営主体としてニューヨク日本人教育審議会内にニュージャージー学校運営委員会が設置され、ニューヨク日本人学校ニュージャージー校・ニュージャージー補習授業校の管理をまかされた。現在、ニューヨク日本人学校教育審議会内のニューヨク学校運営委員会の元にニューヨク日本

人学校（1～9年）とニューヨク補習授業校、ニュージャージー日本人学校とニュージャージー補習授業校がある。また、2006年9月6日より、WFHA校（現Carmel Academy校）との校地共用が始まり、スポーツ、文化交流を行っている。

### ●ニューヨク日本人学校（GJS）の概要



生徒数（H26年3月）

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
児童数	25	24	20	12	18	20	119
学年	7年	8年	9年	計	APPLE	総合計	
生徒数	13	20	20	53	5	172	

※児童生徒数には当該学年のAPPLE学級在籍数を含む。

#### 【特色】

- ・初等部第1学年から中等部3学年、およびAPPLE学級（特別支援学級）をもって編成し、初等中等一貫教育を実施している。
- ・高級住宅地にある学校の自然環境は素晴らしく、毎日、色々な動植物を見ることができる。
- ・教職員には、日本の各地から派遣された派遣教員と現地採用教職員がいる。週5日制で、日本の学習指導要領にそった学習を行っている。
- ・英語（米国社会科の学習を含む）の学習を週5時間行っている。レベルに応じて3人～9人の少人数制によるきめ細かな授業を行っている。また、アートではアメリカ人スタッフによる英語による授業（イマージョン教育）を行っている。また、英検の準会場に指定されており、多くの児童生徒が英検を受験している。
- ・Carmel Academy校とキャンパス

シェアをしており、サッカー交流、バスケット交流や各種文化交流を行っている。また、全ての学年で、現地校との交流を行い、学んだ英語でコミュニケーションをとる学習を行う。

- 子どもたちは全員スクールバスで通学する。昼食は弁当。週2回の弁当業者の弁当を利用している家庭も多い。



史跡でもあるチャペル(教会)。音楽の授業(パイプオルガンや楽器演奏)やコンサートで利用

- 全ての学年において、生活科や社会、理科、音楽、美術などの教科での移動教室が年数回行われ、マンハッタンを中心とした博物館、美術館、地元の警察署、消防署で体験学習等を行う。
- 旅行的行事ではフロストバレー(5年)、ボストン(6年)、フィラデルフィア(7年)、ワシントンD.C.(8年)に行く。6年~8年の学習を通じて、アメリカ合衆国建国の歴史の学習が完了する。泊を伴う行事は、子どもたちには特に大人気である。



- 金融、商社、製造業などの駐在員の家庭の子どもが多く、そのほとんどが3年前後で日本に帰国していく。
- ニューヨーク圏に住む8割程度?(推測)の子どもが現地の公立学校に通う。異文化体験と英語能力の取得という点でのメリットはあるが、日本からの転校および突然の英語による学習にとまどう子どもも多い。

- 日本人学校への入学理由

#### ①安全・安心である。

- 門での警備、ロックダウンの状況完備。
- 教職員が必ず子どもの目の届く距離にいて、無線を通じて子どもの安全を図っている。
- 各種状況を想定した避難訓練。

#### ②学習環境と日本文化

- 学習指導要領に沿った学習の保障。全国から派遣された教員によるきめ細かな授業
- 異国における、日本語環境による、日本語習得、および日本文化の習得のため
- 日本人としてのアイデンティティ-確立のため
- 英語教育の充実と、恵まれた自然環境
- 現地校になじめなかったため
- 現地校への転出を視野に、とりあえず日本人学校に入学
- 現地校と補習授業校との両立が厳しいため
- 日本での中学受験、高校受験のため



世界的指揮者、西本智実さん(来校2度目)による中等部合唱指導

- 場所柄、保護者や企業等の協力から、毎年多くの有名人、著名人が来校してくれる。ゲストティーチャーとして子どもと関わることも多い。
- 校舎、教室の容量から、各学年20名程度、全校で190名程度の入学上限数がある。学年によっては入学待ちになることもある。
- 進路指導

9年生(中学3年生)卒業後は、現地の高校(公立、私立)に進学する子もいるが、ほとんどの子は日本の高校に進学する。2学期(8月)には受験を主な目的として、現地校から多くの子どもが入学。そのほとんどが英検1級~2級を取得。向上意識が高く、一人で10校近く出願する場合もある。毎年、9年生の3分の1~半数の子どもが国立の高校を受験している。

●保護者の目から見た日本人学校

2013年度、学校評価（保護者アンケート）抜粋

それぞれ当てはまる＝**A**， だいたい当てはまる＝**B**  
あまり当てはまらない＝**C**， 当てはまらない＝**D**

（一部抜粋）

①ニューヨーク日本人学校  
は、教育目標の実現のため  
に努力している。

(A-86%, B-14%)

②自分の子供は、楽しく  
学校に通っている。

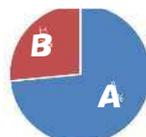
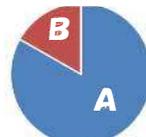
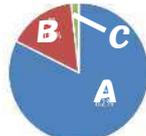
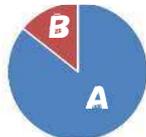
(A-82%, B-16%, C-2%)

③ニューヨーク日本人学校の  
教職員の対応は、適切である。

(A-83%, B-17%)

④教員は授業を分かりやすく  
行っている。

(A-73%, B-27%)



●子どもたちの学びの紹介

～中等部9年社会科見学（2011）から～



国際連合 本会議場

核兵器のない世界をつくらうと、日本が提出した「核軍縮決議案」が先日、採択されました。考え方が一致しない国の協力を得るためには、どのようなことが必要なのですか？

日本は国連への貢献度は高いのに、なぜ常任理事国になれないのですか。また、そのために日本が取り組むべき最重要課題は何ですか？



国際連合 日本政府代表部  
における プリーフィング

【国際連合 日本政府代表部の方から】

- ・相手(の国)には、相手の立場がある。外交問題で大切なことは、相手の立場や考え方に近づく努力を続けていくことである。状況や内容に応じて、100%の賛成を目指すのではなく、51%の賛成（過半数）を目指すこともある。
- ・「Peace」を「戦争のない状態」と、とらえる国もあれば、日本のように「心の平穏」と、とらえる国もある。
- ・UNHCRの難民救済活動で、テントや救援物資が整った難民キャンプの隣で、地元の人たちが干からびた川の底を掘って土の混ざった水を使って生活していました。難民救済はどうあるべきか。皆さんへの宿題とします。
- ・（「国際連合日本政府代表部のお仕事で、一番うれしかったことや、喜びを感じたことは？」という質問に対する返答として）いろいろな人や国のために、日本として何ができるか、そのために日本はどうあるべきかを常に考えている。自分の国、日本のことを思うと、胸がジーンとなって……。言葉に詰まっていました）

【子どもたちが感じ、考えたこと】

- ・将来「外交官として働きたい」と思うほど、興味深い話だった。特に、UNHCRの話は考えさせられた。
- ・国々が平等の権利をもって主張し合える場(国連)が、発展途上国にとってどれだけ大切なものかを考えさせられた。
- ・話の中で、一番うれしかったことは、「自分の国のことを思って働く」ということです。  
私も日本が大好きです。アメリカにいて世界が見えるようになって、やっと気付けたことです。唯一の被爆国であり、平和主義をとっている日本だからこそ、「心がやすらかなこと」という意味の平和について考え、どのようにしたら平和な世界をつくっていけるのか、を考えていけると思います。



「人のためにはたらくということ」「平和とは」「世界とは」。国際連合日本政府代表部の方の熱き思いが、次の世代を担う子どもたちに、しっかりと伝わったようでした。

●最後に（3年間の海外派遣を終えて）

～子どもたちのために～

かけがえのない派遣仲間と切磋琢磨、もがき、走り続けた。3年間毎日深夜、翌日の帰宅。進路業務等を抱えた時期は毎日2時以降の帰宅と、鍛えられた。「頑張り続けて本当に、本当に良かった」と思う。楽しく充実した3年間を送ることができたのも、仲間や協力的な保護者、そして何よりも子どもたちの笑顔のおかげと思っている。3人の我が子も、お世話になった。出会った全ての人に感謝している。全ては子どもたちのために。